一ノ倉沢、一ノ沢右壁左方ルンゼ IC

2011/2/27
斉藤、杉山(M&C)、岡崎(M&C)

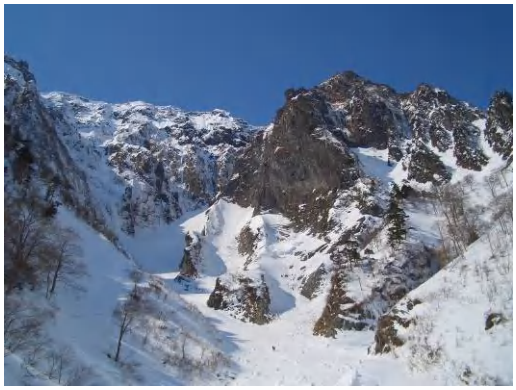
以前より気になっていた一ノ沢右壁左方ルンゼ。この山行の一週間前の 2/20 に意気揚々と谷川まで来るも当日朝に登山靴を忘れている事に気付くという大失態をしてしまい杉山さんと岡崎さんに大変迷惑をかけてしまった。それから一週間後の今回、気を取り直して、リベンジとなった。

2/27 AM2:50 谷川岳ロープウェー駅を出発し、一ノ倉沢出合へと向かう。夜空には一面に星が瞬いている。一ノ倉沢下部には一ノ倉尾根からの全層雪崩により谷が埋め尽くされていた。一週間前にはまだ落ちていなかったので、先週の平日に雪崩れたようだ。
3:45 一ノ倉沢出合に到着し登攀具を身に着ける。
4:20 取り付きへと向かい一ノ倉沢を登りだす。正面には暗闇の中にうっすら浮かび上がる大岩壁に威圧感を感じる。本谷を少し登り左側より入る一本目の沢、一ノ沢に進路をとる。進むごとに斜度の増す急登を喘ぎながら登る。前方の遥か高い所に先行パーティーのヘッデンを確認する事が出来る。
5:20 取り付きについてもまだ暗く、明るくなるのを少し待ち、6:05 先行パーティーの後に、登攀開始する時にはうっすら明るくなり始めた。1P 目 F1 は杉山さんのリードにてスタートする。氷雪壁という感じで氷の露出はない。1P 目終了点に 3 人が集合するとようやく明るくなり先を見渡せる。

F2 を登る杉山さん

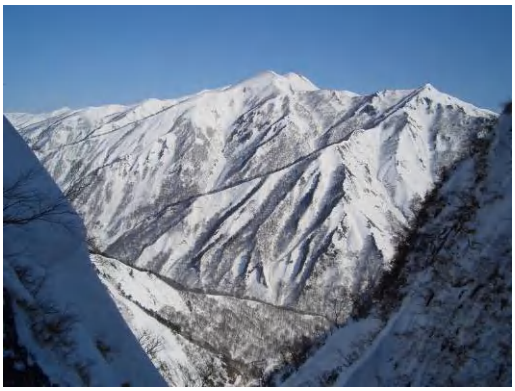
気温も上がり始め、時折塵雪崩が落ちる。F2 から F4 は繋がっていてそれぞれの区切りはつけられない。2P 目も杉山さんがリードし、3P、4P は私がリードする。氷も緩みアックスが良く効く。快適なクライミングが続く。4P 目先行パーティーを巻くように斜面を横切るようにラインを取り、F4 上の灌木にてピッチを切る。「どうぞ。」のコールを送り、杉山さんと岡崎さんの同時登攀が始まる。氷瀑の下方へと伸びるロープを眺めながらビレイしていると突然「ザバザバザバッ」と音を立てて、雪崩が横を通り過ぎていく。「雪崩だ。」と叫んだが次の瞬間、2 本の内 1 本のロープがピーンと張り詰めビレイ支点にかなりの重みがかかった。これは大変だと思い「大丈夫ですかっ。」何度か大声で問いかけると「杉山さんが落ちた。」と岡崎さんからの返事が返ってきた。暫くしてから杉山さんが真っ白になって登ってきた。上半身でまともに雪崩を受けてしまったらしく、腰を痛めてしまった。この後完治するのに数週間の時間を要す事になる。残る核心の F5 チムニー滝は岡崎さんがリードする。氷も良く発達し、楽しく登れた。

F5 チムニー滝



衝立岩（中央）

9:20 アイスルートとしてはここまでだがルートをとおして快適なクライミングであった。予定ではこの後、稜線に抜け一、二ノ沢中間稜、東尾根を経て沖ノ耳に登り西黒尾根を下降する予定であったが、気温が上がり過ぎていた為、大事をとり、同ルート下降と決定する。



下降中笠ヶ岳、白毛門を望む

懸垂を重ね、10:40 一ノ沢に下りると後はゆっくりと他の登攀ルートを眺めながら下山する。一ノ倉沢出合まで下り、振り返ると魔の山と呼ばれた一ノ倉の岩壁はただ美しかった。この日を境に再び冬型が強まり再び雪崩の巣となってしまった。その後大震災を経て、一ノ倉沢の冬季登攀は幕を閉じた。また、来年冬の一ノ倉沢に訪れたいと思う。